

竹中大工道具館見学会

日時：2022年（令和4年）9月23日（金）雨

集合時間・場所：10時 新神戸駅

参加者：15名 + 1名の実習生 欠席者：8名

見学地：竹中大工道具館

作成者：大川内 美恵子



出発前に担当者からあいにくの雨で今日のルート変更をするというお知らせと実習生の紹介。





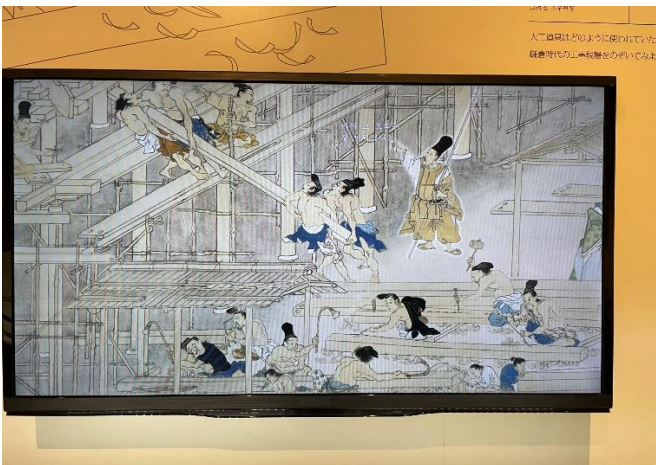
竹中大工道具館



こちらは唐招提寺にある金堂の木組みを再現した。



↑法隆寺を建てた道具類。↓江戸時代の大工の様子。



お寺の屋根に良く見られる、懸魚（げぎょ）と呼ばれる飾り木工は日本の素晴らしいデザイン。



道具類は木材の種類や大きさによって使い分ける。



墨壺は直線を正確に引く道具。唯一彫刻が施されている。



大工さんは練習も兼ねて装飾的な彫刻を施した。



立派な工芸品。



※「すみれ」の語源は、距の蜜だまりが墨壺のお尻に似ているところから。墨入れ(=墨壺)→スミシ。



押し使いの日本の匏と引き使いのヨーロッパの匏





この茶室のスケルトン模型は、大徳寺の茶室「蓑庵」をモデルにして作られた。



畳にも日本ならではの工夫がされています。



ヒノキの削りくずをさわったり、香りを楽しんだ。



衝立は「組子細工」と呼ばれる繊細な作り。日本の高い美意識を感じました。



お点前をお待ちしております。



休息室がとても清潔で素敵でした。



すっかりインプリ科の空気に溶け込んでますね♪



駅で打ち合わせと実習生の感想を聞きました。
雨で「布引の滝」に行けなくて、少し物足りない気持ちで解散。

